

家にいるのに「帰りたい」という 夕方、何も言わずに外出する…

⇒いったん一緒に外出してから、自宅に帰りましょう

【 認知症の人の状態 】

とよさと病院 認知症疾患医療センター

認知症は、「**記憶の逆行性喪失**」で、多くの場合、新しい記憶から順に失われていきます。本人の心理的な背景には、**不安や過去への執着**などがあります。現在の不安な状況から、自分がもっと生き生きと生活していた過去の時代へ戻りたいという願望です。

ご本人は、**最後に覚えている古い記憶**がその方の「**現在**」になります。女性なら“家に帰って家族のために食事の用意をしたい”、男性なら“会社に行く”などの理由で、外出してしまうのです。そして、途中で道が分からなくなったり、目的自体を忘れて迷子になります。夕暮れ時に多いため“夕暮れ症候群”とも呼ばれています。



【 対応方法 】

①ご本人の中で記憶が逆行していることを理解し、忘れてしまっていることを理解させようと説明するより、**ご本人に合わせた対応**をとるほうがうまくいきます。

「帰る前にお茶を入れるからゆっくりして行って」などと勧めて、ご本人を**ひきとめる**こともひとつの方法です。

②ご本人がどうしても出かけようとするときには「**送っていくよ**」などと声をかけ、一緒に付き添い、「そろそろ夕ご飯の時間だね」などとさり気なく誘って、気持ちを今住んでいる家のほうへ向けさせ、一緒に帰宅しましょう。

③「会社に行く」という人には、「今日は日曜日だから、**会社はお休み**ですよ」「〇〇があって、会社から**今日は臨時休業**だと連絡がありましたよ」と、当時実際にあったことを言いながら、説明してみましょう。

④迷子の対策としては、徘徊防止センサー、服の裏側や靴の内側に貼る布製のネームプレート、GPS内蔵の徘徊探知機、徘徊SOSネットワークへの登録などがあります。

参考文献：認知症の人と家族の会監修，認知症になった家族との暮らしかた，ナツメ社，2018，P98-99
杉山孝博，認知症の9大法則50症状と対応策，法研，2013，P92-93